


知ってほしい!あなたの身近に

在宅医療

こんな時、在宅医療があります。

- ・病院に通うことが難しくなったけれど、どうしたらいいの?
- ・医療行為が必要な状態で、退院を勧められたけれど不安
- ・薬を飲み忘れることが多くて、健康管理が心配 
- ・最期を住み慣れた自宅で迎えることはできるの?

なぜ在宅医療が
推進されているの?

どのような状態の時に
在宅医療を受けられるの?

今すぐは必要としていないけど、
将来に向けて
しておいた方が
いいことってあるの?

どこに相談
すればいいの?

裏面にヒントや答えが
あります!



知ってほしい！ あなたの身近に**在宅医療**

なぜ在宅医療が 推進されているの？

超高齢社会の到来と少子化が進み、2025年には全人口の約2割が75歳以上となります。社会保障費が増加し、医療費の削減や入院病床の再編が行われています。その中で医療や介護が必要になっても、「住み慣れた自宅で出来るだけ長く過ごしたい、最期まで暮らしたい」というご本人やご家族を支えるために在宅医療が推進されています。

どのような状態の時に 在宅医療を受けられるの？

脳梗塞、神経難病、骨折手術後、リハビリ中、認知症、慢性心不全、末期がん、糖尿病、老衰などによって足腰が弱くなった方など、どのような状態でも通院困難な方は在宅医療の対象になります。また、高齢者だけでなく、若年の方や乳幼児も対象です。

まずはかかりつけ医を 持ちましょう。

●かかりつけ医ってどんなお医者さん？

「かかりつけ医」とは、病気になったとき、真っ先に相談したいお医者さんのことです。予防も含めて普段から健康診査等を積極的に受けて、気軽に何でも相談できる関係を築いておくと安心です。

どこに相談すれば いいの？

まずはかかりつけの医師にご相談ください。その他の相談窓口はこちらです。

- 通院中・入院中の方
…病院のソーシャルワーカー
- 介護保険サービスを利用されている方
…担当ケアマネジャー
- 高齢者の方
…地域包括支援センターや行政の窓口

尾北医師会在宅医療連携拠点推進事業
江南市在宅医療支援ネットワーク会議